

さといも 疫病に注意!!!

近年、さといもの疫病による大きな被害が全国的に出ており、管内でも発生が認められています。さといも疫病の菌は、土壌中での生存能力は弱いとされます。このため、イモなどの生きている組織で越冬し、次作に伝染するといわれています。

<さといも疫病対策>

- ① 昨年に被害のあった圃場のイモは菌に感染している恐れがあるため、種イモに使用しない!
- ② 収穫後の残さや野良生えイモは、重大な伝染源となりえるので、必ず3月中にすきこむ!
- ③ 種イモの消毒を必ず行う!

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	エコ カウント
トップジンM水和剤	200~500倍(20~30分種いも浸漬)	植付前	1回	1
ベンレートT水和剤20	20倍(1分間種いも浸漬)	植付前	1回	2
	種いも重量の0.4~0.5%粉衣(種いも粉衣)			



たまねぎ

3月も引き続きべと病・白色疫病の発生に注意しましょう。温暖で曇雨天の日が続くと多発しやすいので、水はけの悪い圃場や例年発生の多い圃場では排水をよくするとともに、予防(早期)防除に努めましょう。また、灰色腐敗病の発生にも注意しましょう。

<たまねぎ『べと病』・『白色疫病』両方に登録のある殺菌剤(抜粋)>

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
リドミルゴールドMZ	500~1000倍	7日前	3回
ザンプロDMフロアブル	1500~2000倍	7日前	3回
プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	7日前	3回
ベトファイター顆粒水和剤	2000倍	7日前	

<たまねぎ『灰色腐敗病』に登録のある殺菌剤(抜粋)>

薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
ベンレート水和剤	2000~3000倍	前日	6回
スミレックス水和剤	1000倍	前日	5回
ロブラール水和剤	1000倍	7日前	3回
アフェットフロアブル	2000倍	前日	4回
パレード20フロアブル	2000~4000倍	前日	3回

そらまめ

アブラムシ類の発生に注意しましょう。

<未成熟そらまめ『アブラムシ類』に登録のある殺虫剤(抜粋)>

薬剤名	希釈倍数	使用日数	使用回数
スタークル顆粒水溶剤	2000倍	7日前	2回
アディオン乳剤	3000倍	7日前	3回
モスピラン顆粒水溶剤	4000倍	7日前	3回

2021年 3月出荷暦							2021年 4月出荷暦						
日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	1	2 出荷済み	3	4	5	6 出荷済み					1	2	3 出荷済み
7	8	9 出荷済み	10	11	12	13 出荷済み	4	5	6 出荷済み	7	8	9	10 出荷済み
14	15	16 出荷済み	17	18	19 出荷済み	20 出荷済み	11	12	13 出荷済み	14	15	16	17 出荷済み
21	22	23 出荷済み	24	25	26	27 出荷済み	18	19	20 出荷済み	21	22	23	24 出荷済み
28	29	30 出荷済み	31				25	26	27	28 出荷済み	29	30	

<たまねぎの雑草生育期に登録のある茎葉処理除草剤(抜粋)>

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用回数	使用量(10aあたり)	備考
セレクト乳剤	1年生イネ科雑草	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 収穫21日前まで	3回	薬量50~75ml 水 100L	
ナブ乳剤	1年生イネ科雑草 (ズズメノカタビラを除く)	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 但し収穫14日前まで	2回	薬量150~200ml 水 100~150L	
アクチノール乳剤	畑地1年生広葉雑草	早春期但し収穫30日前まで (雑草生育初期)	2回	薬量100~200ml 水 70~100L	高温時に使用すると 薬害発生しやすい。
バサグラン液剤	1年生雑草 (イネ科を除く)	秋播栽培の移植後生葉4葉期まで (雑草の3~4葉期)但し収穫30日前まで	1回	薬量60~120ml 水 70~100L	高温時に使用すると 薬害発生しやすい。

研修会中止のご案内

水稻栽培研修会(前半)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とさせていただきます。なお、水稻栽培(前半)資料につきましては、4月上旬に各営農センター・営農店舗の店頭・指導課に備え置きますので、ご希望の方はお持ち帰りください。

農薬使用の基本は、『農薬ラベルの確認・使用方法を守る』『周辺への飛散防止対策をする』『農薬の管理、散布器具の整備を徹底』農薬をした際は、その都度生産履歴(防除日誌等)に正確に記帳しましょう。